

中区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体					
現在からそして未来へのち♡ありがとうプロジェクト		中保健センター					
事業目的	事業内容	活動指標	R2	R3	R4		
<p>中区地域計画における「すべての人が安心して楽しみながら子育てができる区」の実現をめざし、次のことに取り組む。</p> <p>○中区内の学校や地域と連携し、子どもや子育て中の保護者に「いのちのはじまりについて」「自分自身がかけがえのない存在であること」を伝えることで、中区で子育てをしている方やそれに関わる人達の自尊感情を高める。</p> <p>○若年出産された保護者や多胎児を持つ保護者が、地域とつながりを持ち子育てに自信を持てるよう子育て支援を強化する。</p>	<p>○小・中・高等学校・幼稚園・保育園・地域等と連携し、子どもたちや保護者にいのちの大切さを伝える。令和4年度については、コロナ感染拡大防止の観点から、学校等へ出向いて「いのちの大切さ」を伝える機会を設けることが困難であるため、学校から依頼があったときに、オブザーバーとして出務をする。</p> <p>○若年出産された保護者への支援 年4回の教室開催(baby∞star)</p> <p>保護者自身楽しみながら参加できる内容とし、地域子育て支援関係者・健康づくり自主活動グループ(歩み会・中8020メイト会)にも協力してもらい、支援者との関係づくりを行う</p> <p>○ツインエンジェルス：多胎児を持つ保護者を対象に年4回、交流の機会を設け、子育ての悩みの解消や保護者の精神的な支援を図る。</p>	<p style="text-align: center;">実施できた機関数</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、集団での健康教育や学校への訪問を自粛した。電話等により情報収集し、小学校13校中学校1校は実施。</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、集団での健康教育や学校への訪問を自粛した。電話等により情報収集し、小学校13校中学校1校は実施。</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、集団での健康教育を自粛した。学校訪問や電話等により情報収集し、小学校13校 中学校6校実施。</p>		
①妥当性	②協働の視点	③インパクト	④効率性				
○	<p>子どもたちの自尊感情を育てることが、自分も相手も大切にできる豊かな心を育てることにつながり、また若年の保護者同士の交流を行うことで、社会参加のきっかけづくりとなり、支援者とのつながりをもてる。多胎児をもつ保護者の交流では、多胎児ならではの悩み等を共有できる場を確保し安心した子育てができるように支援できる。</p>	○	<p>区内の小・中・高校、保育園等と連携することで、性に関する教育の必要性が、地域で幅広い年齢層の子どもたちに認識されている。「baby∞star」に関しては、主任児童委員に参加してもらい、若年の保護者と地域をつないでいる。また、ツインエンジェルスでは、地域の多胎児育児経験者を講師として招き、育児スキルを活かし実施している。</p>	○	<p>事業実施において、主任児童委員に参加してもらい、若年の保護者と地域をつないだり、地域の多胎児育児経験者を講師として招くなど、地域支援者と関わることで孤立化を防ぎ、地域で安定した子育てをめざした事業である。</p>	○	<p>小中学校全校、高校への継続実施をめざしている。小中学校での予算確保が進んできている。「baby∞star」「ツインエンジェルス」においては、広報への掲載や乳幼児健診などで案内チラシを配布することにより、対象者に情報がいきなり、参加につながっている。</p>
⑤自立発展性	総合評価						
△	<p>小中学校の児童・生徒に対して、性教育は重要であり、「いのちの健康教育」を学校が円滑に実施できるよう、継続して行政の協力が必要である。若年の保護者に関しては、地域の見守りと併せて、子育てに関する正確な情報を伝える必要がある。</p> <p>○多胎児は、妊娠・出産・育児にかけて、身体的にも心理的にもリスクが高く、子育てに関する悩みも多岐にわたっており、専門職が関わる必要がある。</p>	<p>令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、感染状況によっては集団での健康教育を自粛せざるを得ない状況であった。baby∞starについては、人数制限をしながらの実施であったが、感染状況が落ち着いてきたときには参加者増加傾向にあり、参加者からの意見を聞きながら実施内容を検討し、参加者のニーズに合わせた取り組みができた。ツインエンジェルスについても、人数制限をおこなった。多胎児育児経験のある講師を中心に、育児の悩みや大変さを共有できる場となった。</p>	<p>令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、感染状況によっては集団での健康教育を自粛せざるを得ない状況であった。baby∞starについては、人数制限をしながらの実施であったが、感染状況が落ち着いてきたときには参加者増加傾向にあり、参加者からの意見を聞きながら実施内容を検討し、参加者のニーズに合わせた取り組みができた。ツインエンジェルスについても、人数制限をおこなった。多胎児育児経験のある講師を中心に、育児の悩みや大変さを共有できる場となった。</p>				
今後の方向性（課題、改善提案等）							
<p>拡充 継続 見直し 廃止</p>	<p>平成21年から開始した保健センターの「いのちの大切さを伝える」という取り組みが、いのち♡ありがとうプロジェクトによって発展し、保健師・助産師・養護教諭・地域が一体となって取り組んできた。一方で小中学校においては、学校での予算の確保がすずみ、学校での取り組みとして定着してきている。そのため保健センターは、この取り組みが継続できるように支援を継続する。</p> <p>若年の保護者を対象とした「baby∞star」については、参加者を増やすことを目標としつつ、対象者が子ども園等に入所し、来所できない状況となっているため、より早期に参加を呼びかける。また、引き続き主任児童委員の協力を得て、地域とつながりを持ち、教室内でもいのちの大切さを伝える教育を実施していく。郵送、個別での電話勧奨も継続する。年4回実施。</p> <p>多胎児を持つ保護者の支援を強化する。多胎児の子育ての大変さや多胎児ならではの悩みを共有できる場とし、これをきっかけに地域のネットワークの中で楽しく子育てができるような内容にしていく。年4回実施。</p>						